

## 学 界 消 息

### 1. 気象庁長官 WMO の執行委員に選ばれる

WMOの総会において4月25日に行われた選挙で、日本は一般選出の執行委員(定員9名)となった。一般選出でアジアから選出されたのは初めてである。総裁(1名)、副総裁(2名)、地区協会会長(6名)、一般選出委員(9名)の18名からなる執行委員会は毎年1回開かれ、総会の決定にもとづいて全般的施策の遂行に責任を持つとともに、専門委員会から提起される技術的問題の処理と実施に当る。

### 2. 竹内清秀氏が気象研究ノート編集委員、講演企画委員に

竹内清秀氏が気象研究ノートの編集委員、および本学会講演企画委員となつて活躍されることになった。

### 3. 駒林氏が講演企画委員に

駒林誠氏が本学会講演企画委員として活躍されることになった。

### 4. 北川・小林、増田・伊藤の諸氏に学会賞

北川信一郎・小林正治氏の「雷雲の電氣的構造および電光放電機構の研究」および増田善信・伊藤宏氏の「台風進路の客観的予報法の研究」に対して本年度の本学会賞が贈られた。

## 国際原子力機関(I.A.E.A.)の国際会議開催について

I. A. E. A. の主催で下記の2国際会議が開催されることになった。会議へ論文を応募される方は、下記の論文提出要領によつて御提出下さい(詳細については日本原子力学会事務局あるいは原子力局調査課へ御問合せ下さい)。

#### (1) 工業における大容量放射線源の利用に関する会議 (於ワルソー)

1959. Sept. 5~11

#### (2) 放射性廃棄物処理に関する会議(於モナコ)

1959. Nov. 6~21

#### (3) 論文提出要領

ジュネーブペーパーに準じ縦28cm, 横21.5cm大の用紙にて、シングルスペースで2頁以内の英文アブストラクト5部を科学技術庁原子力調査課宛(東京都千代田区霞ヶ関2の2, 電58-2597)にワルソー会議は4月30日, モナコ会議は5月15日までに提出する。

なお、追つてフル・テキストを提出する。

## 【書評】 正野重方著 気象の科学

A 5版 260頁 定価 350円

あかね書房 1959年3月31日発行

崎川範行氏、中村浩氏が責任編集をしている少年少女最新科学全集の第14巻として、出されたもので、著者正野重方博士は東大教授で、本学会の理事でもある。

少年少女に「気象を理解していただくように、わかりやすく、おもしろくよめるように、身ぢかな現象を中心にして説明」してある。6章に分けられ、第1章四季の気象では四季の現象とその起るわけを説明、第2章~第5章ではそれぞれ春、夏、秋、冬の気象を説く、第6章では天気予報について述べている。

第2~5章は俳句の歳時記を思わせる書き方で、各季節の章のところに、その季節に特徴的な気象現象が書いてある。たとえば、春の気象では、春がすみ、花曇りとおぼろ月夜、春のあらし、……など。生活に関連して、気象現象を身ぢかにおいて説明するという点で、大成功

だと思う。説明中に随所に、俳句や短歌が入っているのも、生活に直結という点では大いに効果がある。霜害は恐ろしいものだという事は、説明では理解しても、実感は読者に伝わらない。虚子の「霜害を恐れ八十八夜待つ」(p.45)はこの目的を十分に果すだろう。

基礎的なことがらや降雨機構などが最も新しい観点で平易に書かかれていると同時に、気象レーダー、ジェット機による飛行機雲、数値予報など比較的新しいことも取り上げられている。親切なのは図、写真などが豊富なことで、各頁に1~2葉づつ載っている。

申し分のない立派な本だと云えるが、難を言えば、写真に不鮮明なものが少しあることで、これは印刷技術上止むを得ないことかも知れない。(有住直介)